

## 「ゴールデンウィークを終えて・・・」

## 次のステップに向けてのスタート——

四月から夢中で頑張ってきた一ヶ月。少しだけ長い休日を終えて、気持ちのリフレッシュはできたでしょうか。もしかしたら、もう少し休みが欲しかったなあ・・・なんて思っている人もいるかも知れませんが、それでも、今日からのダッシュはとても大切。特に二年生は林間学園が目前に迫っています。三年生の修学旅行も準備できる時間はあとわずかです。大切な時期、時間を有効に、仲間とお互いに声を掛け合うことで、準備を番段にしていきましょう。みなさんとの宿泊行事、とても楽しみです。

## 「夏へ向けての大切な一歩を確実に——」

さて、この連休中にもたくさん部活で春の大会が行われました。全部の部に応援に行くことが出来ず申し訳ありません。どの部も本当に一生懸命試合に臨んでいたと報告をうけています。たくさんさんの保護者の皆様も応援に駆けつけてくださいました。少しでも、その様子を紹介したいと思えます。

まずはサッカー部。「スプリングカップ」という葛北地区の中学校の大会に出場、連戦を

確実にものにしつつ決勝戦まで勝ち上がり、最後はPK戦という緊迫した試合展開になりました。一進一退の展開から先にリードを許す厳しい展開でしたが最後まで緊張感をもって試合に臨み、気持ちを切らさず攻め続け、練習してきたというPKも落ち着いて臨んで、見事に優勝の栄冠を勝ち取りました。おそらくこれが、市内大会はもちろん夏の葛北大会へ向けての大きな一歩になったことでしょう。

男女バスケットボール部。こちらも春の県大会出場をかけて葛北地区の予選に臨みましたが、女子が先陣を切って試合に臨みましたが、北部中に惜敗という結果でした。男子の応援に行ったので前半戦しか見ることができませんでした。仲間同士しっかりと声を掛け合っただけに臨んでいたことは、必ずや次のゲームにつながります。一日一日の練習を確実に力にして頑張ってください。

男子は全体の四位という成績でした。最終日に準決勝、三位決定戦と二試合を戦いました。結果として敗れてしまいましたが、大きな力の差はないと感じられるゲームでした。監督の話によれば、新人戦の頃と比べると、確実に力の差は縮まってきたこと。あとここから先の練習での取り組み方だと思えます。私自身長く競技に携わってきましたが、中学生の試合というのは何が起こるかかわからない。最後は勝負への執念のようなものが強いチームが勝ち上がっていくように思います。

どんなに前評判が高くても、たった一発に泣くこともある。そんなものなのです。ここからの一日一日がとても大切です。高い目標を持って、全員で頑張ってください。

男子バドミントン部は葛北地区の代表として、団体戦で県大会に出場しました。県の壁はなかなか厚いものがありますが、それでも日々の練習の成果が出せるかどうか、それはやはり普段の練習での気持ちしだいです。

『いざは常なり』、よく言われる言葉ですが、普段できないことは、いざという時、すなわち本番でできることはないものです。いつもそれぞれの部活毎に一生懸命に練習している南中生のみなさん。一年生を新たにチームに迎え、ここから更にブラッシュアップしていく時だと思えます。『勝利への執念』、『上手くなりたいと思う心』、『成績向上への思い』、その全てが、みなさん自身がどれだけ強く願うかにかかっています。強い思い、大きな目標を持たなければ結果はついてきません。どうか各自が自分自身に合った目標を持ち、それに向けて精一杯の努力をしていってほしいのです。南部中の先輩たちも皆、そんな取り組みを重ねてきました。今回紹介しきれなかった部活の人たちもみんな頑張っています。どうかお互いが納得できる結果が残せるよう、悔いの残らぬよう、最後の最後まで頑張り抜いてくれることを期待しています。

自らの目標へ、頑張れ南中の仲間たち——

## 「岩倉高等学校 吹奏楽部」

### 第十回記念演奏会に行きました…」

昨日は、上野にある岩倉高等学校吹奏楽部の第十回定期演奏会に行ってきました。前任校の卒業生からご招待をいただいたので、東京文化会館大ホールで、久々に演奏を聴く機会に恵まれました。十回目の記念演奏会で、演奏そのものが素晴らしかったのは言うまでもないことですが、みなさんに知って欲しいと思いい記事にしたのはちょっと別のことです。

私は『岩倉高校』と聞いてすぐに思い出すのは、「鉄道」のイメージです。もちろん今でも運輸科があり、JRをはじめとした鉄道関係の就職（電車の運転手さんになりたいなら、岩倉高校へ行こう…そんなイメージです。）

に有利なことは事実なのですが、この十年間で学校も大きく変わっています。まずは男子校から男女共学の学校になったこと。（普通科の方が定員は多いのです）当然吹奏楽部にもたくさんの方の女子のメンバーがいます。校舎も新しく、とてもきれいになりました。（以前に常磐線のホームから見えていた時と大きく変わっています）そのほかに、いろいろと進化したことがあるように思えます。昨日演奏していた卒業生は自ら何度も足を運んで、学校の様子を肌で感じ、演奏を聴いて、どうしても岩倉高校に進学したいと頑張っていた生徒でした。勉強もかなり頑張ったと思います。志を持つこと（確かな目標を持つこと）は、そ

の人自身に大きな力を与えるものです。みなさんに伝えたかったことの一つは、改めてしっかりと目標を持つて欲しいと言うことです。そしてもう一つは、特に三年生に言っておきたいこと。進路開拓は、『最終的には自分

**自身の責任で決める』**ということ。そのために実際に自ら足を運んで、自分の目で見て、感じて、そして判断して欲しいのです。今回演奏会に行ってみて、改めて進化の様子を実感

しました。昔のイメージでは全く想像できないことです。ぜひ今から、自分の進路についてもしっかりと目標を持つて欲しいと思います。今、公立・私立を問わず、たくさん学校が、施設面だけでなく、様々な特徴が大きく変化しています。変化と言うより進化といった方が適切だと思えます。そんな時代の流れを感じ取ってもらうためにも、今年は一回目の進路保護者会と併せ、説明会も実施します。色々な高校の先生方から特色ある学科の説明を聞くことはもちろん、入試に臨む心構えについて、高校の先生から直接ご講演いただく機会を設けます。本当はすぐに実施したいのですが、まず修学旅行の成功が第一なので、修学旅行や市内大会を終えてからの実施にしたいと考えています。（その頃には体育館のエアコン工事も終わっているのではないかと期待しているのですが…。涼しい状態で説明会を実施できるといいなと思えます。）あつという間に一ヶ月が過ぎてしまったよ

うに、油断していると時間はものすごいスピードで過ぎてしまいます。悔いのない一年にするためにも、一日一日を大切に過ごしていきたいですね。

『軌跡を踏んで、奇跡を生む』、この言葉は、卒業生が演奏会のパンフレットに書いてくれたものです。中学校三年間も吹奏楽部や合唱コンクールでも指揮者として活躍していた彼は、今高校三年生。岩倉高校の演奏を聴き、好きになり、自分の将来も考えた上で第一希望の高校として受験することとし、見事合格を手に入れました。もちろんその後も努力を続け今があるということは言うまでもありませんが、『軌跡を踏んで、奇跡を生む』ということを座右の銘のように大切にしながら、努力してきたのだと思います。東京文化会館大ホールで演奏できることだけでも素晴らしいことだと思えますし、コロナ禍を乗り越えて、満員の観客の前で演奏できたこともきっとよき思い出となったことでしょう。

人は、どんなことがきっかけで自らの人生が大きく変化するかわかりません。それでも、自らの足で歩んでいく軌跡をしっかりと残していくことで、そのあとに輝く、奇跡にも似た素晴らしい結果を得ることができるようだと思えます。『終わり良ければ全てよし』最後の最後に笑うために、今という時の軌跡を大切に歩んでいきましょう。南部中生七八七名の仲間たちと互いに声を掛け、皆で支え合って！